

【情報戦争という風評被害】

心の羅針盤を構築しましょう

【原子力放射能の脅威】

先月の五日、六日と茨城県は水戸まで、東海村JOC臨界事故の視察調査に行つて参りました。この事故は平成十一(1996)年九月三十日、日本国内で初めて原子力事故被曝による死亡者を出した臨界事故でした。あれから十三年経つた昨年の東日本大震災では、福島第一原子力発電所事故(福島原発事故)が勃発しました。その影響で半径二十キロ圏内は、現在に至るまで一般市民の立ち入りが原則禁止されています。ところで読者の皆さんは、放射能の被害についてどのようにお考えでしょうか？実際、人体実験が出来ませんので、百害安全とも言えないし、百害危険とも言えない現状がございます。この問いについては、いずれ別号にて徹底的に考察していきたいと思つていきますので、賛否のほどをお聞かせ頂ければと思つております。今号では、東海村の臨界事故視察調査を行つてみて判明した事実や、私からの補足を一言申し上げる程度に止めさせていただきます。

まず、この東海村の事故に関しては百害人災だったという事が言えます。つまり、東海村臨界事故で亡くなったお二人の作業員の完全なるミスだったという事です。

思えば原子力の歴史への登場は悲劇的でした。というのも、原子力の膨大なエネルギーが最初に使われたのが原子爆弾だったからです。広島・長崎への原爆投下が、私達の原子力のイメージを決定してきたと言っても過言ではありません。原爆投下により放射能の恐怖が植え付けられ、それは今も世界を覆っているのも事実です。しかしその後、放射能の人体に及ぼす影響についての研究は大きく進展してまいりました。現在ただいま、世界の専門家による研究では、放射能の一手の大量被曝は人体に極めて有害だが、一定線量以下の被曝ならむしろ健康にいい、というのが定説となっている学説もあります。その研究によれば、『年間百ミリシーベルトの放射能を浴び続けていると健康が著しく増進する』という研究も出され、これを推奨する権威ある学者も、日本をはじめ世界に多数おられる事実があります。

【歴史が証明する広島・長崎の現状】

放射能の影響について端的な例を1つだけ挙げます。①広島長崎の原爆以

後、放射能で亡くなった人が何人おられるでしょうか？答えは2人です。その2人というのが、先月視察調査に行つた茨城県東海村の原子炉臨界事故でお亡くなりになられたお2人を指します。では何故このお2人が亡くなつてしまったのか？ここが問題です。先述しましたが、人災によるミスが原因と記しましたが、実は高濃度放射性物質をバケツで運ぶという考えられない凡ミス(横着)をやつてしまったからなのでした。調べによれば、放射能制御の技術を完全に無視し、通常よりも7倍ほど大量な高濃度放射性物質を機械に加えてしまつていたのです。言い方は悪いですが自業自得の結果だった事を確認してきました。

また、風評被害には十分注意しなければいけません。『風評被害』：何をもつてそう言っているのか？いま日本では「放射能により、二世三世に奇形児が誕生する可能性があります」と煽(あおり)立てられています。では調べてみましょう。原爆が投下された広島・長崎で奇形児が異常に誕生したのでしょうか？原爆投下より間もなく七十年という歳月が経過します。被爆者の二世三世が次々と誕生しては成人し、結婚をし、子供も出産されておられます。しかしであります。いま私達を恐

怖のどん底に突き落としている放射能による2次、3次の被害、つまり奇形児が誕生したという事実は全く無いのです。一例もありません。一度広まり、染みついてしまった放射能の恐怖という観念を払拭する事は、大変難しい問題です。私達に必要なのは感情論や、風評に左右されない事実を冷静に知る判断力ではないでしょうか？

我が国で初めて「原子力災害による風評被害」が起きた事故について、もう1例あげさせて頂きます。

【久保山愛吉さんの死因】

今は昔、四十八年前の事故です。昭和二十九(一九六四)年3月1日に、ビキニ環礁(かんしょう)での米軍による水爆実験「キャッスル作戦」に巻き込まれて被曝し、半年後の九月二十三日に第五福竜丸の久保山愛吉無線長が死亡されました。久保山愛吉無線長の死因について、当時の日本人医師団は「放射能症」と発表しました。この水爆実験による被曝、広島・長崎への原爆投下に次ぐ「日本を巻き込んだ第三の原子力災害」と言われ、日本は原子爆弾と水素爆弾の両方による原子力災害を経験した国となりました。被曝した久保山愛吉無線長(当時四十歳)が「原水

爆による犠牲者は、私で最後にして欲しい」と遺言して亡くなった出来事(昭和二十九年九月二十三日)は、日本で反核運動が始まる動機になりました。この第五福竜丸の被爆により、焼津や東京では「放射能マダロ」が大量廃棄されたり、残留放射能に対する危惧から風評被害が発生し、焼津市民が日本各地で差別を受けたり、魚肉の消費が落ち込んだりした歴史があります。これは昨年の福島原発事故に至るまでの「原子力災害による風評被害の第一号」と言われております。

しかしです。ビキニ環礁の水爆実験で被曝した第五福竜丸の久保山愛吉さんですが、久保山無線長の死因は放射能ではなかったという驚くべき新事実が発表されています。では死因は何だったのか？**売血の輸血の為に「肝炎」で亡くなった**というのが、新事実の様なのです。ではなぜ、当時の死因を肝炎ではなく、放射能の被爆によるものだったと事実をねじ曲げ、悲劇の人に祭り上げる様な事をしたのでしょうか？原子力は百害危険という虚構の観念を増幅させ、煽り立てる左翼勢力があるというのです。また、今回の福島第一原発の事故では政府行政がその役割を

努めたと言われています。
【福島除染活動について】

今回の震災を受けて「脱原発」を一番最初に叫び、浜岡原発を停止させたのは他でもない菅直人前首相でした。そして20キロ圏内を避難地域に設定し、住民を強制的に避難させました。更に福島県産の農産物、畜産物の販売や作付けを制限したり禁止したり、挙げ句には全域除染などとも出来もしない、必要のない事を言い出したりしました。この様な政府行政の措置がいかに風評を煽り、放射能についての虚構の観念を増幅させたかは計り知れません。広島や長崎で原爆が投下されました。全域除染という大掛かりな作業をしたのでしょうか？全国四十七都道府県中、広島県の人口数は二百八十六万七千五百十人で第十二番目に多い人口数です。また長崎県は百四十二万六千七百七十九人で第二十七番目に多い人口数を誇ります。(ちなみに富山県は百九万三千二百四十七人で第三十七位です。)ところで**広島や長崎で除染活動は為されたのでしょうか？為されておられません。**なぜ今回の福島だけ政府行政は躍起になっているのでしょうか？もちろん必要ならば除染だろうが何だろうが行うべきでしょうが、果たしてそれは必要な事なのでしょうか？

人体実験ができない現実がありますので、百害はありませんが、歴史が証明してくれている事実も忘れてはいけないのではないのでしょうか？**私達国民は、冷静かつ科学的合理的にならなければいけません。**今こそ私達国民は政治と真剣に向かい合い、日本の為に真の政治を生み出す力にならなければなりません。これは私達国民に課せられた任務であると思います。

【被災地支援の難しさ】

最後になりますが、東海村から魚津に戻った八日の夜は、岩手県北上市から出向して頂いた被災地支援を間近で行っておられる司東道雄氏に、大町公民館で御講演を頂きました。講演の内容は、被災地の赤裸々な現状を語って頂くものでした。司東氏が一貫して訴えておられたのは、被災地の現実を見て、真実を知って頂きたいという切なる願いでした。マスコミやメディアで報道されているのは、偏ったものばかりで、本当の事実ではなく、一方通行の間違った情報を報道されている事が多いと嘆いておられました。私も岩手県は陸前高田市や三陸海岸を司東氏と共に車で移動しながら、色々と現状を見て説明を受けながら、仮設住宅や、在宅避難者を訪ねては支援の手を差し伸べながら模索してきました。その中

で感じたのは、良かれと思って善意で行う活動(炊き出しや、瓦礫撤去など)は、かえって現地の被災者にとっては被害を生む原因の1つになってしまおうという難しい問題にも直面しました。あの大震災を前に私達の感情は揺れ動きました。「何かしなければ！」と…。しかし感情論だけで動いてはいけません。冷静かつ論理的に物事を受け止めなければなりません。

尖閣諸島の問題にしても、中国が反日感情を剥き出しにしてきても、私達は正論で向かい合えば良いのです。真実は1つしかありません。風評被害に流される事なく、私達はそれぞれに、心の羅針盤を構築しなければならぬ事を肝に銘じる必要があるでしょう。

※ 今年の冬至水行祭は十二月十六日(日)に開催致します。その時に、大町公民館で行われた司東道雄氏の講演会の模様を、映像で上映致しますので、ご期待下さい。

今掌 副住職 谷川寛教

